

2 その他の漁業

籠漁業を除くその他の漁業としては、主として刺突、鉤引漁法があり、刺突漁法はサワラワクチャーと称する疑餌誘集的なサワラの突棒とサンゴ礁域のほこ突き漁業がある。

イルカ突棒は現在名護で行われているのみであり、サワラワクチャーは昭和30年頃まで各地で操業されていたが最近は今帰仁、名護、久米島等で見られるだけである。ほこ突きは殆んど1本のもりを使い、引っかけ漁具と一諸に持って、素潜りやスキューバーダイビングでサンゴ礁域で周年魚、コブシメ、タコ、エビ、貝等を漁獲する。

鉤引漁法としては、磯釣りのコブシメ、アオリイカの引っかけ漁法が今帰仁村古宇利島、渡名喜島、渡嘉敷島で行われている。また、空曳縄による引っかけ漁法として、ダツの齒にソフトナイロン糸を引っかけとる漁法が石垣島で行われている。

(1) サワラ突棒（俗称サワラワクチャー）…………… 今帰仁漁業協同組合

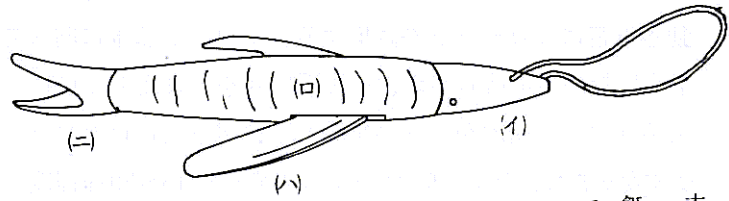
サワラワクチャーが本県沿岸で操業され始めたのはさだかでないが、少なくとも90年以上前から行われていたようである。ワクチャーというのは“誘い出す”という地方言葉で、擬餌で音や波をたてる、魚の遊泳音とか、食餌音等サワラに刺激を与える誘集漁具的要素を備えるものようである。現在今帰仁漁協所属船では7～8人（隻）操業していて、ここで示すのは10余年も操業経験している漁業者のものの紹介である。

A 漁 具

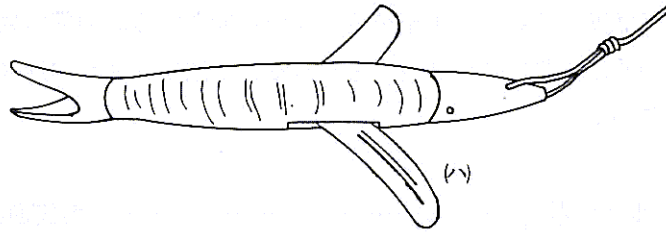
(1) 漁具の一般構成図（図1-1）

B 漁 法

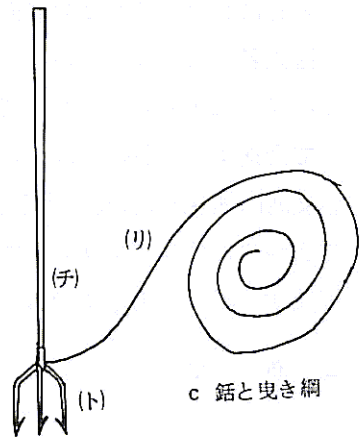
漁場は古宇利島北のクイ礁周辺、辺戸～奥地先、伊是名島西、伊平屋島北の瀬礁の周辺と水深200～500mの島棚からの斜面域に日中、船（サバニ1.5トン）を潮あるいは波に流して操業する。操業方法は漁具の一般構成図の中のaの餌木をbの操業見取図のように手竿（4～5m）の先にナイロンテグス100～150号の道糸3.5～5mつけて、利き手で持って海面を左右に振り、時々止めては上下に動かす。



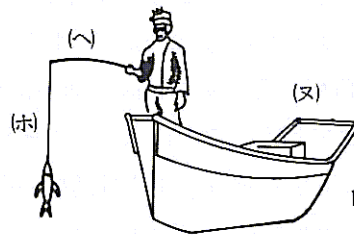
a 餌木



- | | | |
|----|-----------|---------------------------|
| 餌木 | (イ) 頭 | 牛角、長さ 5 cm |
| | (ロ) 胴 | 桧の根元 30~35 cm |
| | (ハ) 羽又はひれ | ヤギの角 15 cm で開いたり閉じたりする |
| | (ニ) 尾鰭 | 牛角、2~3 cm、5~8 cm |
| | (ホ) 道糸 | ナイロンテグス 100~150 号 3.5~5 m |
| | (ヘ) 手竿 | グラスファイバー 4~5 m |
| | (ト) 鉈 | ステンレス 3 又 25 cm 内外 |
| | (チ) 鉈の柄 | 樫 6~8 m |
| | (リ) 曳き綱 | クレモナロープ 8~10 mm、25~30 m |
| | (ヌ) サバニ | 1.5 トン 20馬力 |



c 鉈と曳き綱



b 操業見取図

図 1 - 1 漁具の一般構成図

いかにも餌になる魚（トビウオ、ムロなど）が、海面で動いている様子をつくり、動きと音によりサワラを誘集する。サワラが餌木に向って近寄って来たところをす早く反対の手に持ちかえ、きき手に銚をかまえて、Cの三つ又銚で突く。突進して来るサワラに餌木がかみつかれたり、曇り日にはサワラが視認できない時があって餌木がかまれ、歯型が相当残る。ひきの強い15～20 kg程度のサワラの時や突く場所が悪く抜けそうな時は銚が抜けないように曳き縄を投じて曳かせた後、適宜たぐり寄せて漁獲する。1日中船を流しながら操業する。漁獲尾数の多い時は10余尾70～100 Kg、少ない時は2～3尾である。漁期は5月～10月（新暦）で小潮の時が漁獲は多い。

(2) イルカ突棒 …………… 名護漁業協同組合

名護におけるイルカの捕獲はヒート狩り、ヒート漁と称し市をあげて漁撈と応援をし観光名物にもなっている。2月～5月ないし6月頃までの間に名護湾に来遊してくるのを、ほとんどの船が出て湾口付近からエンジンの音で港内に追い込み、手銚で突いて漁獲する。多い時はバンドウイルカ主体に250頭も漁獲する。イルカ突棒漁業は、名護湾内漁法と違い、図で示すように名護湾沖～伊平屋、沖永良部沖合にかけて2～6月頃コビレゴンドウ、バンドウイルカ等を目的に5隻（3～5トン）で集団操業する。ここで示すのは5隻の中の5トン船の装備、漁法についての紹介である。

A 漁 具

この漁具は、アーチェリー方式いわゆる弓矢方式である。約10年程前から使用されているもので関西方面から導入したもののようである。装着方法は、船首の弓は幅7.5 cm、長さ約280 cmの角型鋼管を使い、図(ア)のように両端から140 cm程度の14本のまるい生ゴムを束ねて番う^つところに5%のワイヤーを2本使い、図(イ)のシメラー（張力機）を使って引っ張り、1本は銚柄の押し出し用に、1本は発射用支柱ピンに掛け止めする。漁場では、図のルのストッパーをはずしておき、発射は図のかのハンドルを左右上下させて的を決めて、発射装置の引金（図のワ）を上にあげることによって止め支柱ピンが下がり銚は発射される。図のホ、図Cの突き銚（矢に相当する）の先には図dの中の（へ）の逆鉤銚（ツバクロと称す）が装着され銚綱が付き対象物に突き刺し込まれる。突き用銚の柄には穴があげられリングが付いてヒモを介して銚綱に結着され、突き用銚が抜けても落ちないようにしてある。

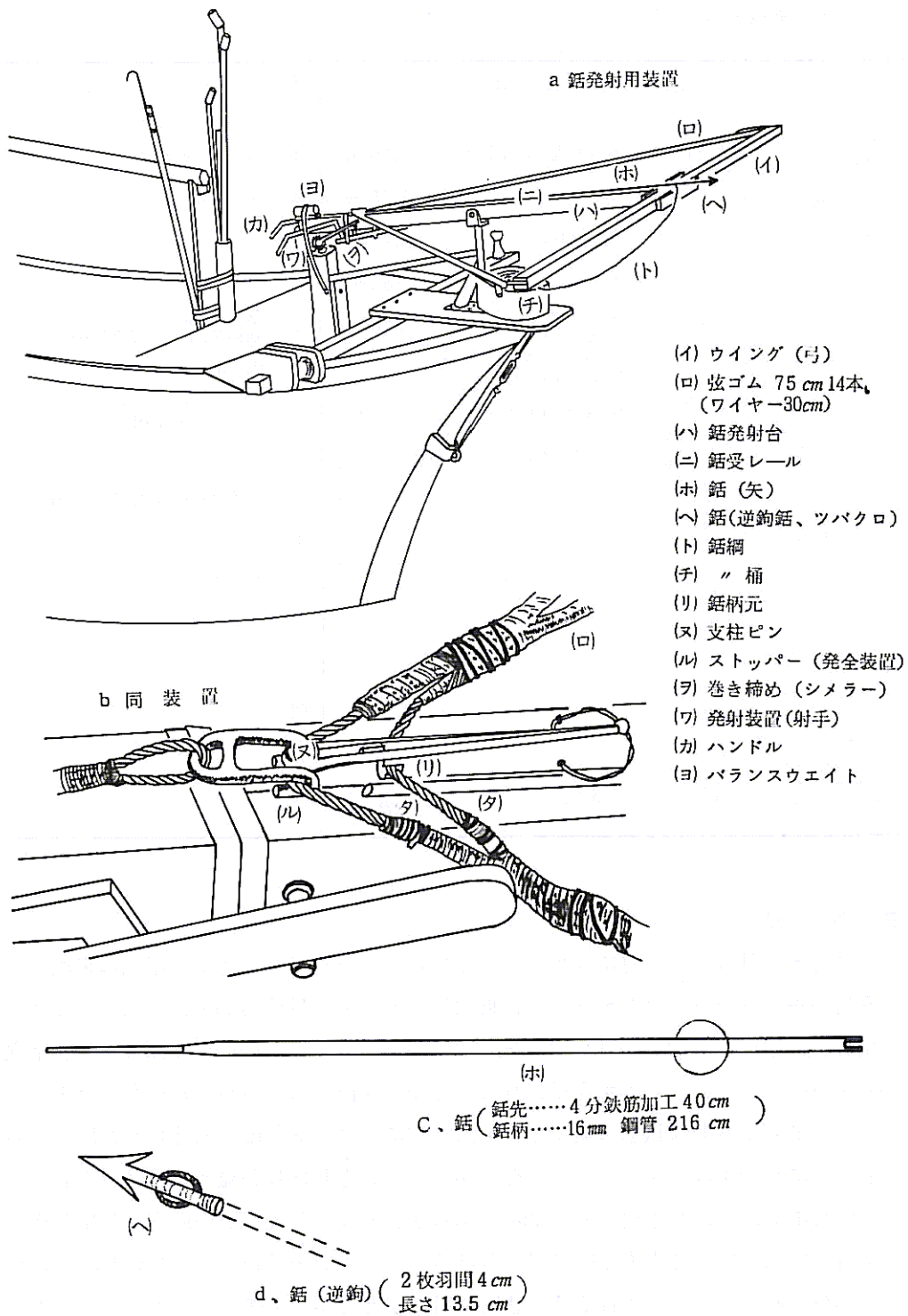


図1-1 漁具等の構成図(a~d)

表 1 - 1 漁具等の仕様

符号	名称	材質	規格・寸法	長さ	本数 (数量)	備 考
イ	ウイング (弓張り)	ステンレス	厚さ8% 高 7.5cm	276 cm	1 本	片側 138 cm
ロ	弦	生ゴム	径12%	片側 75 cm	28 本	片側14本
ハ	鋳発射台	ステンレス	7 cm×10 cm	222 cm	1 本	
ニ	鋳受レール	〃	巾 20 %	185 cm	1 本	5 %厚ステンレス
ホ	鋳	鉄	4分 (12%) 鉄筋加工	256 cm	1 本	鋳先 40 cm 鋳柄 216 cm (鋼管16mm 径)
ヘ	鋳(ツバクロ)	鋼	長さ 幅 4 × 13.5 cm		1 本	両 羽
ト	鋳 網	ポリプロピ レン	12% P G ロープ	50 m	1 本	突き出し網 50 m くり出し網 400 m
チ	〃 桶	FRP又は 鋼	直径 55 cm		1 個	
リ	鋳柄元	鋼				ワイヤー径 5 % 約 30 cm
ヌ	支柱ピン	ステンレス			1 本	
ル	ストッパー	〃			1 個	安全装置
ヲ	巻き締め	鋼			1 個	シメラー
ワ	発射装置 (射手)				1 個	
カ	ハンドル				1 個	
ヨ	バランスウ エイト				1 本	
タ	つかえワイ ヤ	鋼	径 5 %	< 前 20 cm 後 25 cm	1 本	

B 漁 法

2月～5月ないし6月にコビレゴンドウ。バンドウイルカ等が沿岸域に来遊する。5隻のキャッチャー(3～5トン、乗組員2～3人)は慶良間諸島の北部から伊平屋島、沖永良部島沖にかけて約1涅間隔に並んで3ノットの船速で探索する。鋳発射装置はクジラ、イルカが発見されるまで安全装置(ストッパー)をかけたまま、装填しておく(bの状態)、発見し、追跡(常に3ノット程度の船速)した段階で発射態勢にし射手はハンドルレバーをつかまえて的をしぼり距離20m程度で発射する。鋳が命中したら、突き出し網は50mであるが、継ぎたして鋳網を適宜くり出し疲れを待って引き寄せて人力で船に引きあげる。(ウインチは持っていない)。漁場から港が数時間程度で帰えられる時は舷側に引き寄せてから曳航する。魚艙内では氷蔵にする。肉はオスが良く一般に水煮してから販売する。クジラ、イルカは潮流に関係なく普通群をなして移動する、子供が捕獲されると2～3頭近くに寄って来て漁

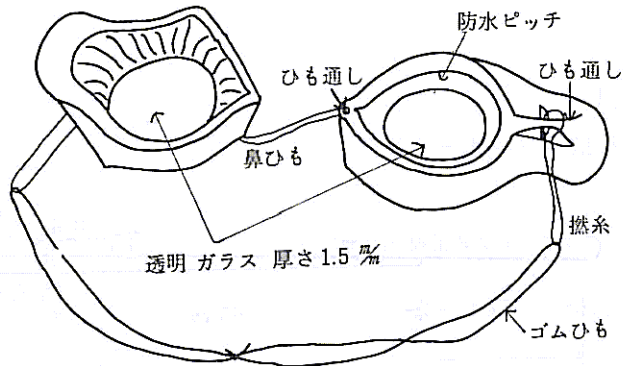
獲しやすい。一頭漁獲収容してから次の操業にうつるまで約3時間かかる。航海は2日～7日程度である。

(3) 亀カキ 平良市漁業協同組合

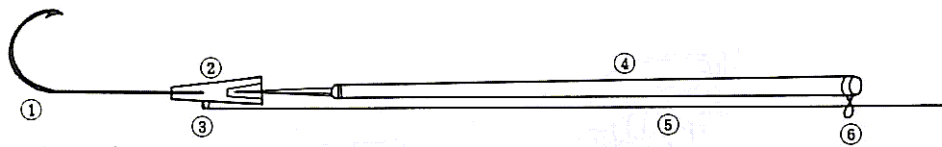
この漁具及び漁法は漁村では一般に見られる単純なものであるが、鉤針具に銚が装着されているのが特徴で1漁具で多用途がある。この漁法は西原地区で常用されているものである。

A 漁 具

漁具の見取図 (図1-1)



a 潜水眼鏡 (材料は、はましたん木、ヤラブの木及び牛角)



b 鉤付手鉤

- ① 改造カジキ釣針
- ② 真ちゅう、金具 (銚先を突込む)
- ③ 縄取付環
- ④ 銚 (銚先50cm、綱製、柄は4m～5m)
- ⑤ 漁獲用縄 (クレモナ7mm、約50m)
- ⑥ つば (漁獲物が引けばはずれるように抜き刺しに軽く結ぶ)

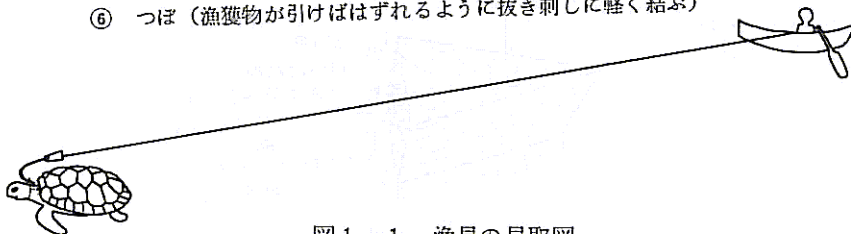


図1-1 漁具の見取図

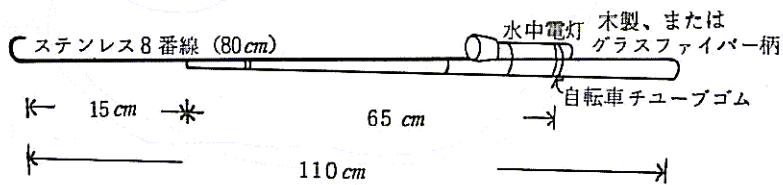
この漁具は鉤は主として海亀用に使う。カジキ釣針を改造し、釣針の“ふところ”を大きく“かえしと胴”の一部に真鍮製金具で鉤先差込用穴を作って固着し、曳縄取付用環をつける。漁夫は図のaの潜水眼鏡をかけて鉤を取付けた鉗をもって素潜りし、亀の甲の前方首をひっかける。ひっかけた亀が縄を曳いたら図の⑥のつばから縄の結びは解けて鉗は穴から抜け、鉗は柄の浮力で海面に浮上する。鉗は魚やタコ、コブシメ等突く漁具にもなり釣針は漁獲物をひっかける。また引き上げ用具にもなる多用途漁具である。サバニに1人乗り、沿岸域で周年操業する。

(4) いせえびカキ 平良市漁業協同組合

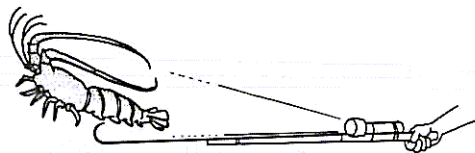
この漁法は一般的に行われているもので、夜のいわゆる電灯潜り漁業で、素潜りもあるが、ほとんど潜水器を使う。ここで紹介するのは西原地区で常用しているものである。

A 漁 具

漁具の見取図 (図1-1)



a 鉤 引 具



b イセエビ類用
船型生簀

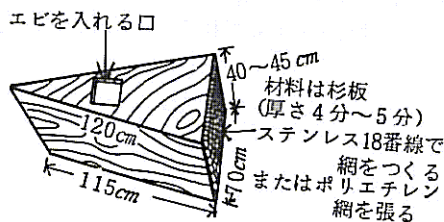


図1-1 漁具の見取図

長さ 1.1 m の手鉤の柄に防水電灯（単一電池 3 個入れ）をゴムで巻きつけて固定して使う。イセエビ類が夜間穴からはい出して来てウニ類を食する行動をするので尾部内側（内横）をうしろから横がけするようにすばやく鉤引する。（肉部を傷つけると死にやすい）漁獲したイセエビ類（かのこいせえび、しまいせえび、けふかいせえび等）は船（サバニ）のそばに浮かした生簀（図 b）に入れて生かす。漁場移動によっては人力で引っばってアンカーを投じて浮かしておく。1.2 トンのサバニに 1～2 人乗って操業するが、サバニを使わず、生簀だけ引っばって操業する時もある。漁期は 7 月から翌年 3 月までで（4 月 1 日から 6 月 30 日まで県の調整規則で禁漁になっている）漁場は宮古島の北沿岸域のさんご礁地帯である。

(5) シジャー（だつ）曳縄……………八重山漁業協同組合

A 漁 具

釣針を使わずにシジャー（だつ類）を釣る漁法である。ダツ類は歯が多くしかも鋭く、内傾斜のため強くて軟い糸でからめて獲る。材料は古い落下傘の懸垂ベルトをほどいて、7～10 m の糸で直径約 12 cm の輪（24～30 本合せ）を作り、1 ケ所だけずれないように何回も巻いて結止する。

この輪を青系統染料（No.17～20）で染めて擬餌にする、道糸はナイロンテグス 25～30 号を約 40 m 使いその先に擬餌糸の輪をしかける。

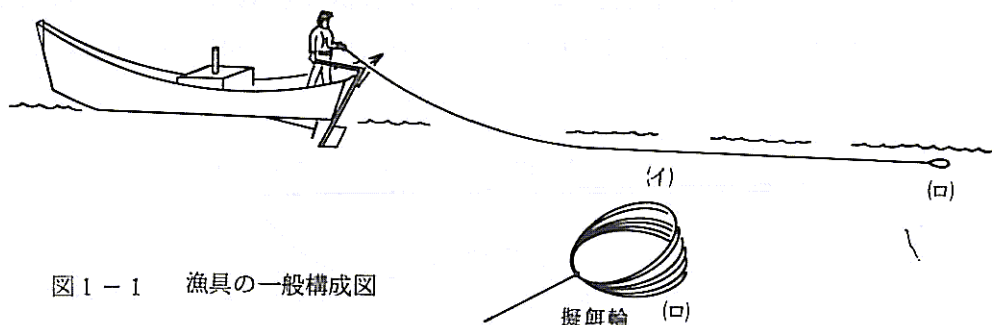


図 1-1 漁具の一般構成図

(イ) 道糸 ナイロンテグス 25～30 号 40 m

(ロ) 擬餌 ナイロン糸 18 本～21 本

（落下さん用）直径 10 cm 17～18 周巻き

B 漁 法

(イ) 操業方法

漁場に到着すると、擬餌糸は 2～3 ノットで曳く、曳く時は道糸を握りながら時にはしゃくってあたりを待つ。魚が喰い付くと輪はもつれ魚の歯に絡む、直ちに

手繰り寄せて取り込み、再び曳く。魚が大物だと強力な引きで水面をジャンプするので道糸は10mほど収納箱に準備する、魚は雲った日は、水面の青い糸が目立たないせいか喰い付きが悪い。操業は、明け方から日中行う。漁船は1トン未満のサバニで乗組員は1人である。

(ロ) 漁期、漁場及び漁獲物

漁期は周年、漁場はリーフの外縁及び外海、漁獲物はマルシジャー（てんじくだつ）、ヒラシジャー（はまだつ）等で、漁獲物は氷蔵する。

(6) コブシメ一本釣 …………… 今帰仁漁業協同組合

この漁法は古宇利島の岸壁で小屋を作って操業する、一見遊漁的であるが副業的に漁業者が行っている。

A 漁 具

(イ) 一般構成図 (図1-1)

(ロ) 操業見取図 (図1-2)

B 漁 法

毎年11月から翌年5月頃まで古宇利島海岸域にコブシメが寄って来るので岸壁に防雨寒用小屋を作って日没から日出までの夜釣り（月令は無関係）で釣針に活餌（イシミーバイ（かんもんはた）ムルー等が活力があって良い）をかけて泳がす。コブシメが喰いつく（抱きつくと称す）とたぐりよせてひっかけ針（1本～数本針）でひ

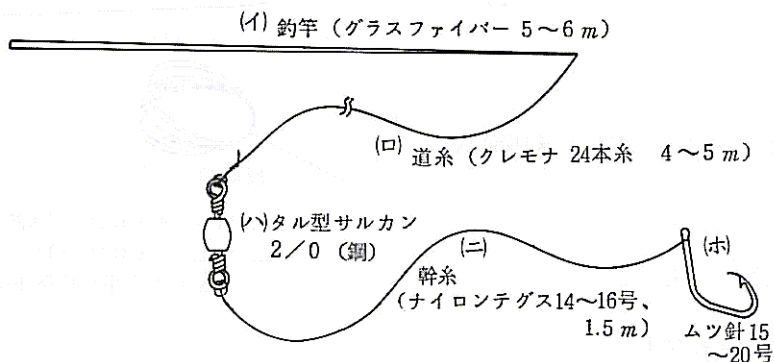
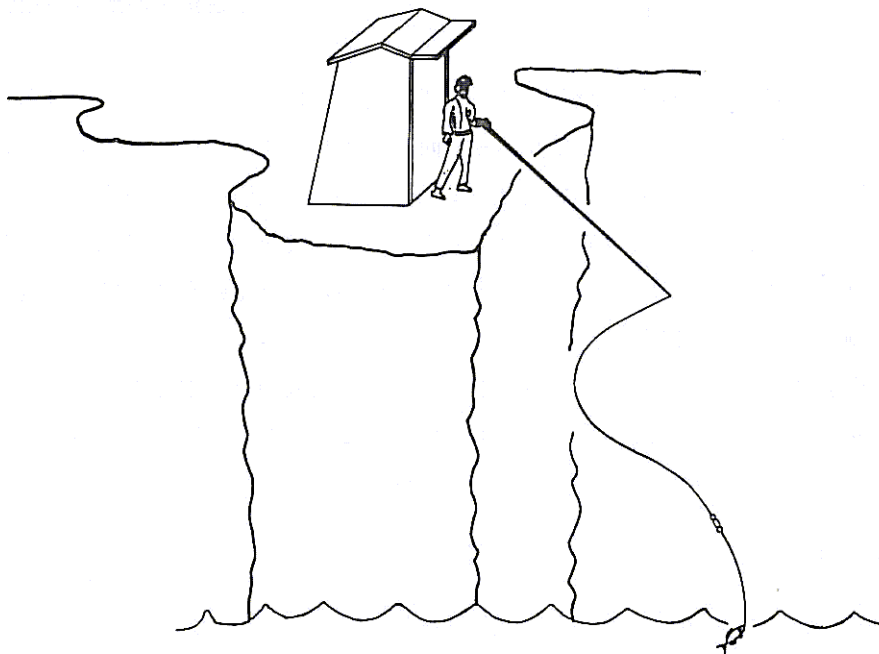


図1-1 漁具の一般構成図



活餌（イシミーバイ、ムルー等）

図1-2 操業見取図

っかける。1尾2～4Kgが普通で、1日2～3尾程度の漁獲。活餌は地先で釣って来て、コブシメ釣り場で網カゴに入れて水面下につりさげておいて適宜使う。なおアオリイカ（白イカ、アカイカと称している）も同じに釣れる。

(7) コブシメ一本釣 渡名喜村漁業協同組合

渡名喜島では以前から行われていて“いさり”的なもので、11月～3月までの月夜の干潮時に外リーフ上から投げ込み、餌（鮮魚）が生きてゆっくり泳いでいるように竹竿を操る。コブシメ、タコ及びアオリイカが餌に喰い（だきつく）ついたら竹竿を手元に寄せ、かけ針（竿先につける）で引っかけてとる。なお装餌の仕方は道糸（ナイロンテグス 100号）の先を魚（鮮餌）の口から入れて鰓を通して背びれの前から反対側の鰓を通して口から出して結ぶ。

以前は、カーハジャー（かわはぎ）のはく製（板切れや木の中に入れてクギ止め）も使ったようだが、最近鮮魚が入手しやすいこと、あるいは漁獲（刺網や電灯潜りで突く）出来ることからもっぱら鮮魚を使う。

A 漁 具

装餌と漁具の一般構成図（図1-1）

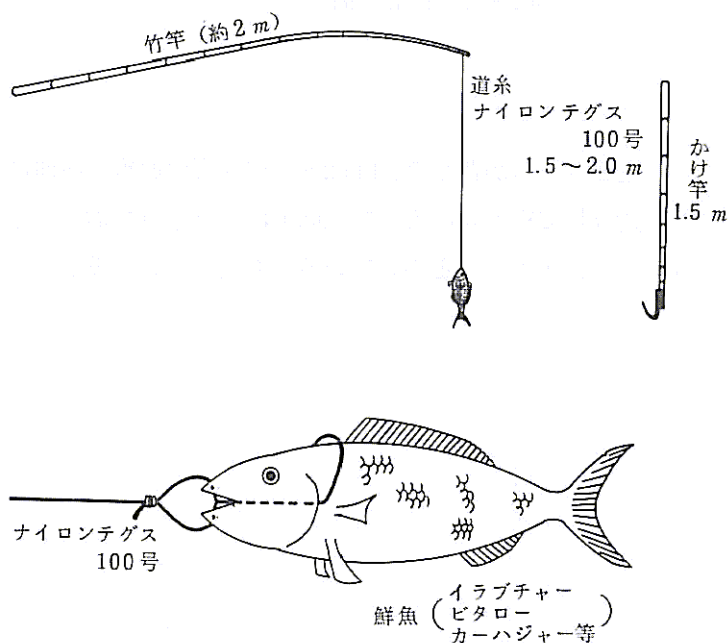


図1-1 装餌と漁具の一般構成図